

委員会等の会議録

1 会議名	第7回愛南町学校統廃合検討委員会	
2 議題	(1) 答申について (2) その他	
3 開催日時	令和3年6月29日(火) 19時00分から20時00分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5 傍聴者数	※非公開会議	
出席者		
6 委員	出席 19名 欠席 1名	
7 担当所属	所属名	学校教育課
	担当職員 (職・氏名)	教育長 中村 維伯 課長 岩井 正一 課長補佐 近田 幸信 課長補佐 西田 順哉
8 その他の出席者	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
近田課長補佐	定刻となりましたので、ただ今から第7回愛南町学校統廃合検討委員会を開会します。
委員長	(開会あいさつ)
近田課長補佐	(本日の資料の確認) それでは、早速協議事項に移ります。ここからの議事進行につきましては、委員長にお願いします。
委員長	それでは、まず初めに、愛南町公立小中学校再編に関する答申書について、岩井課長が御説明いたします。 岩井課長、お願いします。
岩井課長	最初に、これまでの流れなどもちょっと振り返りながら、素案について説明させていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。 まず第4回目にお示ししたと思うんですが、アンケートを、就学前、そして小中学校の全保護者にとりました。 これは就学前の保護者のアンケートです。ここの反対という意思を示された方が約13%ということです。 ほかには賛成あるいはやむなしまたは無回答というのは、どちらかどちらでもいいか、また、関心がないかというところかなというふうに感じております。 小学校においては、ここの反対のところは15%、これも就学前と大きく変わるところではなく、大体この構成もほとんど就学前と変わりませんで、中学校においても、次、反対のところは14%というところで構成比も大きな差はありません。ということで、全体的にも、構成比的には変わってなくて、全体でも反対という意思を示されている方は14%というところではあります。 回収率においても、86%という、やはり対象者が絞られているのでかなり高い。回収率だというふうに考えられます。 大体、住民等のアンケートの回収率の目標は大体40%、ぐらい、40%取れば、有効なアンケートというふうな考え方がされていますので非常に、やはり学校という関係で高いというふうに見ております。 いろいろな不安要素、皆さんに協議して頂き、アイデアもいろいろ出していただいて、こういう形で、再編に向けての、や

はり理解が得られる方向の答申をつくりましょうというところで皆さんの意見が一致して進んでおります。

前は、骨子ということで、御提示させてもらいました。最初の大まかなページのとこだけでも、やはり旧町村単位で小学校について1校の全体で5校が望ましいのではないかというのを出させてもらいました。

中学校においては2校程度が望ましいのではないかというふうに出させていただきました。

ほかの項目もあるのですけれども、前回は骨子に関していろいろグループ内で協議を重ねてもらいました。出された意見としては、やはり5校、2校とか、また通学のこととか、保護者の負担であるとか、時期は5年以内っていうようなところも適当ではないかとか、再編に関していろいろな条件とか、こういうような意見が出されております。2班についても、こういった形で出していただきました。3班についても、出していただいて先ほどの写真にあったように、各グループで発表していただきました。

今、先ほど見ていただいた付箋を拾い出して、全部の意見です。

学校規模については、先ほど言ったようにこの青い意見は5校というところを肯定的な付箋という感じです。

ピンクは課題があるのかなっていうところを書いてくださっております。

中学校についても2校については、皆さん肯定的で、黄色のところは中間的な意見とかまた新たな意見というところ、あと、ピンクのところはやはり、気になる、心配事というような感じで書いてくださっております。

5年以内っていうのは、やはり賛成肯定的な意見が多いというように書いてくださっております。

中に、当年度に関しては、町で決めてもらったほうがいいんじゃないかというような、貴重な意見もいただいております。

通学についてはあらゆる手だてで、通学負担にならないようにという、ところだというふうに受け止めさせていただきました。

再編については、やはり、校区外も認めたりとか、内海のこととか、西海のこととかも書いてくださっております。

校名に関しましてはちょっとこちらからこういう考え方もあるんじゃないでしょうかというのを、例えば校名を変えて、対

等の統合という意味合いにしてはどうかになっていうのもあってそういうふうに出させてもらいましたが、肯定的な意見もあったというふうに思います。

グループまとめの中でやはり城辺、御荘というところは、やっぱり歴史的なこともあるので、いろいろ住民感情もあるかもしれないよということもつけ加えていただきました。

また制服の問題も出るだろうというふうに書いてくださった方もおられました。

そういう感じで進めて、いただきました。

今回、御手元にお配りしていますが、その骨子をまたさらに、前回の意見をいただきながら、文書化したのがそちらです。はじめにというところで、このあたりは、答申については、こういった基本的な考え方とか、こういう方策の2点について諮問をしております。

それについては、理由として3点ほどありますが、やっぱり国の推奨する適正規模よりも本当に小さくて、複式学級とか、児童生徒の減少が続いていますよということ。

また、やはり、一定の集団規模の確保が必要、というふうに考えると、やはりこれはこういった連携協働とかそういうことが大切ですよというふうに考えて、というところを出しております。

あとは、施設の老朽化、長寿命化の課題も、今後、見込まれるというふうにいったところを含めて、諮問をしております。それで、これまで6回いろいろな御意見を頂いております。

学校運営協議会とか、この検討委員会の委員さんから、また保護者のアンケートからの意見を、一番大切にしたいということで、今までさせていただきましたが、アンケートにあったように、15%の前後の方々のやっぱり不安、反対という部分での不安っていうところ、こういった意見をやはり重視して受け止めて、いろいろ委員さんの中で、グループ協議も何度もしていただいて、議論を重ねたというようになったとように思います。

それで、再編することについて理解を得られる答申とするということで、皆さんで合意形成をしていただいたというところ です。

やはり、愛南町の学校再編計画、仮称になるんですけども、これを策定する場合には、この検討委員会での諮問され、まとめられたこの答申の内容を、尊重してほしいというところで、はじめのところは結んでおります。

これは骨子のところであるのですけれども、適正規模の考えに立った理由を、こういった皆さんの御意見をまとめたものをそこに載せております。

これ小学校、中学校も同じくです。

そして、先ほど言ったような、重要視する再編することでの課題や不安への対応ということで、太字のところは骨子等で載せてるのですが、そこで、皆さんからいただいた御意見、また事務局等で考えた、提案させてもらったものをそこに文面として載せさせていただいております。

通学負担についても、いろいろな提案をいただいて、そこに載せております。

特に地域側からすると、地域に学校がなくなるという不安への対応というところで、これも本当にいろんな御意見とか御提案をいただいたものをそこに箇条書にしております。

再編に関して考慮する事項と、小学校に関しては、先ほど言ったように各旧町5校、1校とした場合に、どうしても地域によって、複式学級が解消出来ない学校もあると、そのときは、当面やはり存続した上で、1人以下の学級が予想されるときが来たときに、また次のステップを考えは検討し始めるというところを書かせてもらっております。

あと、校区外からの児童の通学っていうのを、緩やかにするというようなところも書かさせてもらっております。

先ほど出た新しい学校名の検討というのも入れさせていただきました。これ最初中学校のほうで入れてたのですが、小学校のほうにも同じように入れさせていただきました。

これはあくまでも選択肢なので、絶対っていうことでは、こちらとしては書いてはおりませんので、御理解いただけたらと思います。

中学校に関しては、2クラスを確保出来ない年度というのを書いております。

そうなると、次の再編ということになるともう一つということになるので、やはり新しい校舎のことなども老朽化の問題から考えていく必要があるのかなというふうなところで書かさせていただいております。

再編の時期については、やはり、前回話し合っていたように、5年以内というところが妥当ではないかと。

あと、やはり、再編の年度っていうのは、いろいろとあろうかと思いますが各学校ごと、事情も出てこようかと思っています。

この再編計画仮称は、今年度内に教育委員会において策定することが望ましいというふうにかきさしてもらっております。

教頭未配置が予想される学校については速やかに検討を始めるってところがあるんですけど、この再編の年度っていうところと絡んでくるんじゃないかなというふうに思っております。

これは再編の枠組みとして、小学校5校ということで、一応こういうくくりが予想されるんじゃないかというふうなところで、こちらでちょっと書かせてもらっております。

内海地域については、こういう状況で平均と現状維持みたいな感じであらうかと。

御荘地区、城辺地区、こういった形でくくってみました。ちょっと僧都小学校のところなんですけど、実は、今年、今年度の末をもっての閉校の動きが今、出ております。まだ、正式にはこちらでも発表してないんですけど、そういったところで知っていただけとったらと思います。

御荘城辺地区においては、一定年度は安定した、大体同程度の学校の人数規模というところで推移していくんだろうというふうに思います。

西海地区については、やはり2校両方とも少ない人数なんですけれども、こういった形で、当面は維持していくべきじゃないかなというふうに、事務局のほうでは、皆さんの意見を聞いて感じております。

一本松地域については一本松小学校、1校を書いておりますけれども、また後でちょっと出てきますが、篠山との関係が出てきます。あと、宿毛市との協議というところが出てきます。

小学校においては久良小学校が、平城小と城辺小と距離的にはあんまり変わらないこともありまして、この辺はある程度弾力的な考え方が必要なのかなということ、希望に対応できるようにするのも一つの方策かと思ひまして、そういった表現を書き加えております。

中学校については、こういうくくりがいいんじゃないかなというふうなところで、大体、双方似たような規模で推移していけるのじゃないかなということ、その後の、先ほど言った建物の問題等も含めて、これから、あとは何年後になるかわかりませんが、必ずそういう時期も来るんじゃないかなというふうに考えます。

宿毛市との協議が篠山の場合は出てきますんで、その場合も

再編計画書を参考にしていくことが望ましい、協議に関してですね、ということになるかというふうに思います。

学校等の老朽化ということです。

これは長寿命化計画っていうのもあるんですが大体学校の、どれぐらいの老朽化がきてるか、また、長寿命化、大改修とすればどれぐらいのお金とか、また、もつのかっていうところも出ていますが、これはこれとして、また、こういった建設等の計画なんかも今後は必要なんじゃないかなというところで書いております。

その他の要素としては、いろいろ意見がありましたけれども、この少子化の問題とか、産業振興などは確かに要因の一つですが、これは総合的なまちづくりの取組において、考えていくべきもので、この検討委員会では、そういった認識でとどめているというところ加えております。

あと、急激な再編は、実は教職員の定員に大きく関わることで、学級数によって教職員の定員は決まってるんですけども、他市町への異動や転出が予想されるので、一遍に急激に進めると、そういったことが起こるので、これは計画的にというところを書かさしてもらっております。

終わりにというところで、これは、非常に今からの時代が大きく、変わっていきますので、特に、こういったICT技術とかAIが進むと、なくなる職業が増えるというふうに言われているようです。生活スタイルも大きく変わっていきます。

そう言った中で、いろいろ対応できる子供たち、また将来、そういった時代を生活していく人たち、人となる子供たちにいろいろな学びを与えてあげるべきではないかなというふうに書かしてもらっております。これより、将来の社会を担う人材、特に愛南町にそういう子供がずっと生活してくれたらいいんですけどもやはり、大学とか、そういう学校の問題があっても一度は外に出るお子さんが多いと思うんですけど、必ずそういう子供さんも帰るとか、すごく愛南町に愛着を持ってもらって、何らかの形で応援してくれるとか、そういう人材が育つといいなというふうに思っております。

あと、大きく変わる時代として、「ソサエティ5」の時代が来るというように言われています。

これが本当に、いわゆる仮想の空間と、現実の空間を融合させるような時代が来るんだというふうに言われています。

そういうものに対応できる人材になって欲しいという

	<p>ふうに思っています。</p> <p>学力の三要素と言われるのが、こういったものがあるようです。一概に学力といっても、いわゆる勉強ができるとか、スポーツができるとかということではなくって、様々な要素はありますよということが文科省からも言われています。</p> <p>一番着目したのが非認知能力ということで、これは教育長もすごくいろんなところで強調するんですけども、やはりテキストでは測定出来ない、個人の特性による能力というところで、意欲とか忍耐力とか、またコミュニケーション能力、そういったものが身につくような子供の人材に育っていくためには、大人と先生とのかかわりだけではなくって、同年代、上下、そういった子供たちの世界の中でこういったものは育まれていくんだというふうに言われていまして、ぜひこの答申の中にはこういう意味合いも盛り込んだらどうかというふうに考えて書いてみました。</p> <p>それでは、よろしかったら、10分ほど時間をとって読んでいただいて、また後に、委員長の進行によってまたいろんな御意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。</p>
委員長	<p>皆さん、ご覧いただけただでしょうか。</p> <p>ここまでのことで御意見、気がついたことや何か質問などがあればお願いします。</p> <p>〇〇委員どうぞ。</p>
委員	<p>4ページの(2)再編を行う際考慮する事項の小学校の2段目のですね平城小学校区と城辺小学校区以外の学校は、特認校として、校区外からの児童の通学を認めるということなんですが、これはまだ答申段階なんですけど、これを実際に行うときに、その再編を行うところからも、こういうことを認めるのか、今現在の現状として認めるのか、そこはちょっと、もうちょっと詳しく記述することがあるかなと思います。</p>
岩井課長	<p>現在もですね、実は、校区外って結構おりまして、特に保育所絡み、保育所が結構なくなっているところであるとか、保育所は校区とは関係ないので、例えば城辺の子が、御荘保育所行ったり、その逆があったりとかいうところで人間関係が出来てきたり、友達と一緒にの保育所に行きたいっていう方々も結構いらっしゃって、そこらも校区外で認めております。</p>

	<p>ほかにもいろいろ理由があれば、割と保護者の希望に沿うような形で現在も、校区外を認めておるような状況です。</p>
委員長	<p>〇〇委員、よろしいですか。 皆さん、もしなければですね、この素案でおおむね了承ということになるんですけど、どうでしょうか。 何かもう少しないでしょうか。 〇〇委員。</p>
委員	<p>はい、3ページの、エの地域に学校がなくなるという不安への対応について、これいろいろ本当すばらしいことは書いておられるんですけど、これは、また今度こういう文の書き方で説明とか何とかは予定されてるんですか。ただ、こういう意見がありましたよというのみでとめるんですか。</p>
岩井課長	<p>冒頭、この答申は、計画を立てる折には尊重するようというところで書かさしてもらっております。ので、これが実現になるべくできるような、書き方で、計画にはやはり盛り込むべきだというふうに考えてるんですが、</p>
委員	<p>もしも仮に表現するとすれば、やはり地についての意見というようなもの、ぜひ、説明のほうに加えていただきたいというように、はい、思っております。</p>
岩井課長	<p>はい、ありがとうございます。 やはり例えば公民館の役割なんかも、まだまだ課題があったりするかなというふうにこちらも思ってますので、表現なんかを例えば、努力するとか努めるでとどめといけない項目もあろうかというふうに思っています。</p>
委員長	<p>そのほかないでしょうか。 〇〇委員どうぞ。</p>
委員	<p>はい、間違えたらすいません、5年後には再編されてるっていう感じの予定でいいんですか。</p>
中村教育長	<p>今回、答申という形で教育委員会に出しますので、教育委員会の教育委員と一緒にまた中で練って、そのあと、それぞれの</p>

	<p>ちょっと保護者のところに当然話し合いに行って、ここの中で5年以内のできるだけ調整をしながら、入れてくれというのを最大限調査を尊重して、委員会として動くつもりですね。</p> <p>その中で、中には5年とは言いながらもどうしても6年目にしてほしいとかですね、そういう調整になる場合もあるかもしれませんが、委員会としてはできるだけ今回のこの答申は尊重して、最初に〇〇委員からも質問が出とった、何年スパンでこれ考えるんですかという中で、本当に今の5年6年先の子供が小学校入学する時点で大体60名から70名、町内全て合わせて、これの人数になりますので、当然そこまでに、それぞれの大体ここで、例えば教頭先生が配置出来なくなりますとかいろんな事情が今の出生数からある程度見えますので、それぞれの地域の保護者と話して、年度を決めて行ければと思っております。</p>
岩井課長	<p>今教育長のほうから教頭の問題なんかが出ました。</p> <p>最初のときに説明させてもらいましたが再度、お伝えさせていただけたらと思うんですが。教頭職は3学級以上、なければいけません。教頭を配置する場合、ただ3学級あっても13人を切ったら、12人になったら教頭は未配置になりますので、その表の中で見ていただくとちょっと危ない学校等がございます。また、3学級なのか4学級なのかでもまたこれ微妙なラインがあります。</p> <p>それと、あと養護教諭が配置出来なくなるのは、2学級になったときです。複式なんかでとんだ学級なんかがあると、2学級が実際あるんですけど、僧都なんかがそうなんです、実は篠山もそうなんです。</p> <p>それはちょっと特殊性があるので、あそこは校長が小中兼務しているところがあるので、特別に小学校のほうに教頭をつけてもらっておりますが、そういったところが、ちょっと目安になってくる可能性はあるのかなというふうに事務局では感じています。</p>
委員長	〇〇委員どうぞ。
委員	<p>何が言いたいかっていうとですね。</p> <p>多分これ、実施していたときに、今では考えられないぐらいの問題が起こったりとか、多分それをやらないとわからないっていうことが多分多々あると思うんですよ。</p>

	<p>そうなったときに、もう 1 回こういった委員会を開いて、やるみたいな文言を入れとけばいいのかなとちょっと思ったんですよね。そこをどういう機関が修正かけていくっていうか、やっぱりやってみたけど、もうちょっと変えたほうがいいよとかっていうのは、それは教育委員会のほうの日々の業務としてそれをやっていくっていうことで、いいんでしょうか。</p>
<p>中村教育長</p>	<p>はい、基本的にはですね、学校の設置者は町長で、当然教育関係つかさどるのが教育委員会ということで、そこはやはり教育委員会が責任を持ってやるべきだと思っています。</p> <p>例えば、ここの検討委員会で決めてもらったんで、だからこれでやりますよっていう言い方は、教育委員会としては私はちょっと、逃げになるのかなと思ってますので、やはり最後は何でもその地域の保護者であったり、場合によったら地域の方ということにもなろうかと思いますが、そこはもう話を何度もして、調整をして決めていくと、そのように考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>そのほかないでしょうか。</p> <p>最後にこの素案で、おおむね了承していただけますでしょうか。</p> <p>(委員全員拍手)</p> <p>委員の皆さんありがとうございます。</p> <p>なお、言葉や文字、文章表現を精査したものを次回、お示し、答申書を確定できればと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>続きまして、次第(2)その他に移ります。</p> <p>その他ということで、何かございませんか。</p> <p>お気づきなど、何でも構いませんので、何かありませんか。</p> <p>何でも構いませんので、よろしく願いします。</p>
<p>委員長</p> <p>委員</p>	<p>はい。〇〇委員。</p> <p>今回のこの統廃合検討委員っていうのは、やっぱり統廃合の学校の統廃合に関して特化して話し合いをずっと進めてきたわけなんですけど、先ほどその答申書にも入ってたんですけど、よく産業だったりとかですね、いろんな人口減少の問題とかそういうところが全部本当は考える必要があつてっていうところが</p>

	<p>あると思うんですよ。</p> <p>そうですねすごい、参加させていただいて、すごい、正直ちょっと楽しかったし、話合いがですね、いや本当に楽しかったです。意義あるものだったなと自分自身思うんですけど。</p> <p>総合的にやっぱり考えるっていうのは、誰が考えるんですかっていう、そこを結構キモだと思うんですよ。</p> <p>はい、本当にそのとおりだと思います。私も、一応この教育委員会をつかさどる長として、この統廃合の検討委員会についてはもう、まずはここへという、最初に産業であったりほかの部分の言ってしまうと、例えば高齢化問題とかも入れますとかいうと、恐らくなかなかまとめることにはならないので、ただ、行政側に対して、こういうやはり委員の皆さんからのやはり最終的にもっと全体的な検討が必要ではないか、という意見があったというのをお伝えしますし、今ちょうどですね、総合計画といまして町側の5年ごとに大体こういう愛南町として計画で進んでいきます。</p> <p>当然産業ですね、福祉、教育、交通インフラとかですね、全般にわたっての検討をちょうど始めるところになります。</p> <p>そちらのほうの委員も募集してですね、もう既にアンケートとかが届いて、提出された方も中にはありますが、その中に統廃合にしても、産業振興とか、そういうものに影響されるところが多いのは、私もある部分の委員になりますので引き続き伝えていきたいと思っております。</p> <p>それと統廃合計画をつくる時も最後パブリックコメントをしたいと思いますので、また様々な形で、はい、そこの辺は発信をいただければと思います。</p>
中村教育長	<p>はい、本当にそのとおりだと思います。私も、一応この教育委員会をつかさどる長として、この統廃合の検討委員会についてはもう、まずはここへという、最初に産業であったりほかの部分の言ってしまうと、例えば高齢化問題とかも入れますとかいうと、恐らくなかなかまとめることにはならないので、ただ、行政側に対して、こういうやはり委員の皆さんからのやはり最終的にもっと全体的な検討が必要ではないか、という意見があったというのをお伝えしますし、今ちょうどですね、総合計画といまして町側の5年ごとに大体こういう愛南町として計画で進んでいきます。</p> <p>当然産業ですね、福祉、教育、交通インフラとかですね、全般にわたっての検討をちょうど始めるところになります。</p> <p>そちらのほうの委員も募集してですね、もう既にアンケートとかが届いて、提出された方も中にはありますが、その中に統廃合にしても、産業振興とか、そういうものに影響されるところが多いのは、私もある部分の委員になりますので引き続き伝えていきたいと思っております。</p> <p>それと統廃合計画をつくる時も最後パブリックコメントをしたいと思いますので、また様々な形で、はい、そこの辺は発信をいただければと思います。</p>
岩井課長	<p>今教育長が言ったように、またそういう計画を再度つくる最中になっていきますので、その辺もしっかりと議論されることになるんだろうというふうに思います。</p>
委員長	<p>皆さんそのほかございませんでしょうか。</p> <p>それでは、以上で全ての協議事項が終わりました。</p> <p>皆様御協力ありがとうございました。では、進行を事務局にお返しします。</p>
近田課長補佐	<p>それでは、閉会挨拶を副委員長が申し上げます。</p>

副委員長	(閉会あいさつ)
近田課長補佐	副委員長、ありがとうございました。 以上をもちまして、第7回愛南町学校統廃合検討委員会を閉会いたします。 本日は大変お疲れさまでした。